

■ 米中協議の進展期待は、今しばらく引き継がれる…

トランプ米大統領が「香港人権・民主主義法」に署名し、同法は成立するに至った。

ただ、もともと署名する可能性は高いと見られていただけに、第1報が流れた後でも市場の反応は冷静だった。中国が直ちに報復措置を取るとは考えにくいうえ、米国が同法の成立を盾に具体的な制裁措置を中国に対して講じるということも余程のことがない限りはないであろう。

米中貿易協議との関わりも基本的には薄いと見られ、今後も通商合意への市場の期待は引き継がれる可能性が高い。少なくとも、12月15日に米国が予定している中国製品への新たな関税の発動は延期される公算が大きいと見られる。

米中首脳による合意文書への署名は年明けに持ち越されると見る向きも多いが、そうであるとするならば、なおも年末年始に向けて市場の期待は引き継がれる可能性が高い。ただし、それは同時に「当面の買い材料が出尽くし」となって、米・日株価が一旦利益確定の売りに押されるタイミングをも先送りする可能性があるということでもある。

ちなみに、米商品先物取引市場における VIX (恐怖) 指数先物のファンド筋によるネットショートは、なおも過去最大に積み上がったままの状態にある。11月19日時点における VIX 先物の投機ポジションは、ショートが31万枚余り、ロングが9.5万枚弱で、差し引き20万枚超の売り越し状態となっていた。これは当然、VIX 指数が年初来で最も低い水準まで低下してきていることに因るわけであるが、いずれは必ずアンワインドの動きが生じる。

利益確定のために先物が買い戻されて VIX 指数先物価格が上昇すれば、やはり VIX 指数自体もある程度は上昇する。それは、あくまで一時的なポジション解消に伴うものであると当然理解できるわけであるが、プログラム売買のシステムは、VIX 指数が上昇してくれば“機械的に”株売りの指示を出す可能性が高い。そのタイミングがいつ訪れるか、警戒を強める向きもある。

もちろん、投機筋がショートを手仕舞うタイミングは、株価が調整売りに押されやすくなるタイミングに相前後するだろう。それは、足下の株価を支える好材料が一旦出尽くしとなる場面と重なる可能性があると思われる。むしろ、そうなれば一旦はドル/円に売り圧力がかかることともなる。

然は然りながら、ドルが基本的に強い状況であることに依然として変わりはない。そして、結果的にユーロ/ドルが依然上値の重い展開を強いられている点については前回更新分でも触れたとおりである。なおも、31週移動平均線に上値を押し上げられていることは言わずもがな、足下では再び1.1000ドルを割り込む場面も見られており、同水準をクリアに下抜けると、あらためて10月安値の1.0879ドルが視野に入りやすくなると見る。

一方で、ドル/円はついに109円処の節目と200日移動平均線をクリアに上抜ける動きとなってきた。昨日は11月7日高値=109.49円をも上抜け、目先は62週移動平均線(62週線)が



位置する109.81円処を試す展開という見方もできるだろう。

左図に見るとおり、62週線のすぐ上方には一目均衡表の週足「雲」が位置しており、当面の上値を押し上げやすいと思われるが、ひとたび上抜ければ、いよいよ2015年6月以来形成されてきたトライアングルの完成と相成る。

ドル/円の値動きと強い相関があるトヨタ自動車株は、9月半ばに2015年3月以来形成していた

トライアングルを上放れている。その動きに、少々遅れてドル/円が追随することとなる可能性は大いにあると思われる。

(11月28日 09:30)